



平成25年度
新宿区
協働事業評価報告書
(協働事業提案実施事業)

新宿区協働支援会議

「平成25年度 新宿区協働事業評価報告書」

目次

新宿区協働提案制度による協働事業の評価を終えて	2
1 協働事業評価の概要	3
2 評価の目的	3
3 評価の手法	4
4 評価の流れ	5
5 協働事業評価実施事業	7
協働事業の評価結果	12
（1）新宿アートプロジェクト	13
（2）街角スポット活用事業	18
【参考資料】	23
1 協働事業事前確認書	24
2 協働事業自己点検シート	25
3 協働事業相互検証シート	29

平成26年2月5日

新宿区長 中山 弘子 様

平成25年度実施の協働事業提案制度による2つの協働事業について
次のとおり評価しましたので、報告します。

新宿区協働支援会議 座長 久塚 純一

協働支援会議委員

	委員の区分	氏 名	職 名
1	学識経験者	座 長 久塚 純一	早稲田大学社会科学総合学院教授
2	非営利活動団体 構成員	座長代行 宇都木 法男	一般社団法人 ユニバーサル志縁社会創造センター 理事
3		関口 宏聡	特定非営利活動法人 シーズ・市民活動を支える制度を つくる会 常務理事
4	区 民	竹内 洋一	公 募 区 民
5		野口 博	公 募 区 民
6		太田 節子	公 募 区 民
7	区内事業所の 社会貢献部門 経験者	伊藤 清和	元 富士ゼロックス東京(株) CSR部社会貢献推進グループ
8	新宿区社会福祉 協議会職員	井下 典男	新宿区社会福祉協議会事務局次長

新宿区協働提案制度による協働事業の評価を終えて

新宿区協働支援会議では平成18年3月に「協働事業提案制度の導入について」・「協働事業評価制度の導入について」の2つの報告書を取りまとめ、新宿区長に提出しました。協働事業提案制度は、この報告を受け、平成18年度から導入された制度です。

新宿区は、基本構想・総合計画でめざすまちの姿として「『新宿力』で創造する、やすらぎとにぎわいのまち」を掲げ、まちづくりの6つの基本目標の一つとして、「区民が自治の主角として、考え、行動していけるまち」、また、区政運営の6つの基本姿勢として、「区民起点の区政運営」・「地域力を高める区政運営」・「参画と協働を基本に区民の知恵と力を活かす区政運営」等を計画に定めています。協働事業提案制度は、こうしたまちづくりの基本目標等を達成するための具体的な取組みの一つであり、基本構想に掲げる「新宿力」を形づくる一つの手法として「地域の力」と「多様性」を活かす仕組みとなるものです。

協働事業提案制度が推進されることで、多様な主体が担い手となり地域を支える「よりよい地域社会」が形成されると考えます。また、区民が様々な分野で参画する地域社会づくりを進めていくためには、「NPO等と区が実施する協働事業によって地域社会にどのような変化が顕れるのか」、「区民の生活の課題がどのように解決されていくのか」を区民に示していくことが必要です。さらに、事業の計画段階から効果測定に至るまで、それぞれのステージで客観的に評価を行い、事業実施に反映し、改善に繋げていくことが大切です。

新宿区という独自性あふれた空間がさらに魅力的なものとなり、多くの都市にとっての一つのモデルとなるには、新しい公共性の形成と構築が求められます。そのためには、常に、協働の原点に立ち返り、徹底した情報公開を行い、継続的に評価を実施していく必要があります。

このような基本認識の下、平成25年度は、NPO等と区により行われた2つの協働事業を対象に、協働支援会議が第三者機関として評価を行いました。今年度の協働事業評価を行う中では、2事業ともに2年目の事業として、1年目の評価を踏まえ、それぞれの団体の専門性を生かしながら協働に取り組む姿勢や、団体・区担当課の対等なパートナーシップの下、懸命な取り組みが行なわれました。また、事業に参加した人たちからは高い満足度が得られている状況や関係する機関や施設とのネットワークづくりが進められている状況が確認できました。

しかし、地域とのつながりや広がり、区民の参画といった観点からみると課題が残った点もあり、必ずしも多くの区民に十分に認知されたと言い難い点もあったため、厳しい評価結果となりました。

平成25年度からは、「事業評価を事業終了時の取扱いに反映させる」ことや「事業期間は3年間までを基本とする」こと等、更に協働事業提案制度の実効性が高まるよう制度の見直しを行い、新たな事業の採択もいたしました。

区民の参画や地域との連携の下、協働のまちづくりが促進され、地域課題の解決が図られ、多様な人々にとって新宿区がさらに暮らしやすいまちとなることを期待します。

新宿区協働支援会議 座長 久塚 純一

1 協働事業評価の概要

新宿区では、各主管課において多様な主体と様々な協働事業が進められ、25年度の協働事業進捗調査では、157に及ぶ事業が様々な協働形態で行われています。その中で、協働事業提案制度により25年度に実施された2つの事業について評価を実施しました。

各事業の評価については、それぞれの事業が、16年に策定した「地域との協働推進計画」が基本目標として掲げる「多様で新たな区民ニーズへの対応」や「区民の参画意識と主体的な区民活動の促進」、「行政の体質改善」に結びつく取組みになっているのか、また、「相互理解」、「自主・自立性」、「対等の関係」等、6つの「協働の基本原則」を十分踏まえ、事業の目標や想定される成果が達成できたかといった点から評価を行いました。

また、協働の中身・質を高め、事業の目標や意図する成果を達成していくためには、協働の当事者が、互いにプロセスや成果を確かめ、議論し合い、相互検証を行うといった、一つひとつの経験を積み重ねていくことが大切です。そして、「計画」・「実施」・「結果」・「反省と改善」といった各事業の場面における評価基準を定め、客観的にその取組みの評価を行い、実施の場面で改善に繋げていくことが必要です。

そのため、各事業の評価については、協働事業の開始時に事業実施団体と区担当課が、事業の目的や目標、想定する成果等を共有したことを明確にするために作成した「事前確認書」と、事業の振り返りのために作成した「自己点検シート」・「相互検証シート」をもとに、団体と区の担当課へのヒアリングを行いながら第三者機関である協働支援会議が評価を実施しました。

各事業の評価結果については、13頁以降に記載のとおりです。

昨年度は協働事業提案制度の見直しにより事業募集を行わなかったため、今年度は見直し前の2年目の2事業について行い、「C：協働事業として概ね適切であるが、一部改善の必要がある」が1事業、「D：協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である」が1事業という評価結果になりました。

2 評価の目的

協働事業の評価は、協働の意義を明確にするとともに、それぞれの事業の意図する成果の達成状況を明らかにすることを目的として行います。

〈協働の意義〉

- ① 区民生活にとって効果的な事業を実施すること
- ② 協働を進めるNPO等と区が相互理解を進め、対等な関係を築いていくこと
- ③ 区民の主体的な活動を推進しコミュニティの形成につなげていくこと
- ④ 前例の踏襲や組織の縦割りの弊害など、これまでの区の仕事の内容や進め方を見直す契機とすること
- ⑤ 様々な主体の自立性を高め役割分担を明確にしていくこと
- ⑥ 協働事業を発展させ、住民福祉の維持向上と住民自治を推進していくこと

- ⑦ 区民ニーズに基づく予算化の優先順位をつけるための判断基準の一つにすること

3 評価の手法

- (1) 事業実施団体と区担当課が作成した「事前確認書」を基本に、それぞれ「自己点検シート」の記入を行い、双方の協力の下、「相互検証シート」を作成します。また、評価時点までの事業の実施概要の提出を求めるほか、受益者からの評価はアンケート等で把握します。

これらを実評価資料として、協働支援会議が両者にヒアリングを行い、第三者評価を実施します。

- (2) 評価については、「計画」・「実施」・「結果」・「反省と改善」の事業プロセスごとに評価を行うとともに、総合評価を実施します。事業プロセスごとの評価は、主に次の着眼点によって実施します。また、1年目の事業の総合評価は、事業の各プロセスにおける協働の取組状況と今後の事業に対する期待や展望といった点から評価を実施します。そして、2年目の事業については、1年目の評価の視点に加えて、成果目標の達成状況からも評価を実施します。

- (3) 評価結果については、ホームページ等により、広く区民等に公開し、事業の透明性を図り、更なる協働の推進に結びつけていきます。事業実施団体と区担当課は、評価の結果により、課題が明らかになった場合には、双方の活動や事業の実施に反映していくことが必要です。

■協働事業の評価にあたっての主な着眼点

協働事業評価項目		評価にあたっての主な着眼点
①優れている ②適切である ③課題はあるが、ほぼ適切である ④不十分であり改善が必要 ⑤その他		※評価は、協働することの意義を明確にするとともに、それぞれの事業の意図する成果の達成状況を明らかにすることを目的に、事業実施者(事業実施団体と区の事業担当課)へのヒアリングにより行います。
計 画	1 事業における区民ニーズや課題のとらえ方	地域ニーズや課題の共通認識での把握
	2 事業の成果目標の設定	成果目標の明確化と共有、達成度を把握可能な成果目標の設定、費用対効果からみた事業計画の妥当性
	3 協働の相手への期待とその成果	協働の相手方との問題意識の一致、対等なパートナーシップの確立、協働による相乗効果の把握と認識の一致
	4 役割分担の決定方法	十分な意見交換のうえでの、協働を有効に機能させるための役割・責任の分担の明確化
実 施	5 事業の進捗状況や事業に関する情報の共有	事業の進捗状況の確認や意見交換の実施、必要に応じた協議のうえでの事業の進め方の軌道修正
	6 協働の相手との成果目標の達成度などの話し合い	目標達成に向けた取り組み状況の共有と検討、必要に応じた協議のうえでの目標達成のための手段の見直しの実施
結 果	7 当該事業実施における受益者(区民)の意見集約	事業対象者からの意見集約の手段の適切性、事業関係者が受け止めた成果から見えてくる課題の整理
	8 今後の課題の把握および共有	事業実施を通して浮かび上がった課題や問題点の検証と共通理解
反 省 と 改 善	9 改善すべき内容の把握	改善方法の検討と共通理解、今後の事業展開に関する方向性の認識の一致

4 評価の流れ

(1) 評価対象団体等

① 協働事業提案制度による事業実施団体(特定非営利活動法人、市民活動団体・ボランティア団体などの社会貢献活動団体。以下「NPO等」という。)

② 区の事業担当課

(2) 評価対象事業

協働事業提案制度による25年度実施の2事業

(23年度に採択した協働事業で実施2年目の2事業)

(3) 評価手法 「3 評価の手法」に記載のとおり

(4) 評価の実施経過

平成 25 年 4 月 15 日	協働支援会議 25 年度の取り組みの方向性の確認
8 月	事業実施団体と区に自己点検・相互検証シート作成依頼 事業実施団体と区がそれぞれに自己点検を実施
9 月 13 日	事業実施団体と区が自己点検の結果をもとに意見交換し、 相互検証を実施
10 月 30 日	協働支援会議（第 1 回協働事業評価会） ◆ヒアリング 23 年度採択 2 事業
11 月 11 日	協働支援会議（第 2 回協働事業評価会） ◆評価内容の調整・審議 ◆評価書作成方針確認
12 月 18 日	協働支援会議（第 3 回協働事業評価会） ◆評価報告書作成
平成 26 年 1 月 15 日	協働支援会議 ◆評価結果のまとめ

5 協働事業評価実施事業

【平成24年度から継続実施している事業】

事業名	新宿アートプロジェクト	ヒアリング実施日	平成25年10月30日																			
実施者	実施団体	しんじゅくアートプロジェクト																				
	区担当課	多文化共生推進課・子ども総合センター																				
事業概要	目的	<p>新宿区に在住する外国にルーツを持つ人々の多様性を文化資源と捉え、一歩進んだ新しい多文化共生のロールモデルを実現する。その多文化な背景を持つ子どもたちやその保護者と地域の日本人との住民参加による共同制作の場を提供することにより、多文化共生社会をともに創っていく。</p> <p>(※ロールモデル=将来像のお手本)</p>																				
	目標・成果	<p>①創作活動については、外国にルーツを持つ人々も日本人も対等な立場で共同制作に参加することができる。また、双方向の取組みとして提供することが可能であり、このことにより、多文化共生の意識が醸成できる。</p> <p>②団体の持つノウハウや人脈を如何なく発揮できるよう、区が実施場所・展示会場等の確保及び行政内部の調整等や実施関係者との連携に努めることで、区内全域での事業展開が可能になる。このことにより、比較的外国人住民の少ない地域においても多文化共生の意識啓発に向けた効果が期待できる。また、外国籍住民やその子どもと地域住民との交流ができることは多文化共生を推進する効果・成果が期待できる。</p>																				
	実施内容・実績等	<p>【芸術ワークショップ】9/26 現在 参加者延べ176人(子ども158人・大人18人)</p> <p>《凡例》 日(日本)韓(韓国)中(中国)比(フィリピン)ミ(ミャンマー)イ(インド)ブ(ブラジル)</p> <p>《注》 「新規欄」には、各回の芸術ワークショップに初めて参加した人数を記載</p> <p>[写真] (人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日</th> <th>場所</th> <th>参加者</th> <th>新規</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5/25</td> <td>あわスペース</td> <td>子ども9(日2・韓2・中3・ミ1・イ1) 大人2(日2)</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <p>[ダンス等] (人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日</th> <th>場所</th> <th>参加者</th> <th>新規</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5/16</td> <td>子ども 総合センター</td> <td>子ども28(日17・韓2・中2・比5・ミ2)</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>6/6</td> <td>子ども 総合センター</td> <td>子ども21(日10・韓2・中2・比5・ミ2) 大人2(日2)</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table>		日	場所	参加者	新規	5/25	あわスペース	子ども9(日2・韓2・中3・ミ1・イ1) 大人2(日2)	8	日	場所	参加者	新規	5/16	子ども 総合センター	子ども28(日17・韓2・中2・比5・ミ2)	22	6/6	子ども 総合センター	子ども21(日10・韓2・中2・比5・ミ2) 大人2(日2)
日	場所	参加者	新規																			
5/25	あわスペース	子ども9(日2・韓2・中3・ミ1・イ1) 大人2(日2)	8																			
日	場所	参加者	新規																			
5/16	子ども 総合センター	子ども28(日17・韓2・中2・比5・ミ2)	22																			
6/6	子ども 総合センター	子ども21(日10・韓2・中2・比5・ミ2) 大人2(日2)	17																			

実施内容・実績等

日	場所	参加者	新規
7/4	子ども 総合センタ	子ども 12(日 8・中 1・比 1・ミ 2) 大人 1(日 1)	2
8/1	子ども 総合センター	子ども 13(日 11・比 2) 大人 1(日 1)	2
8/1	大久保 地域センター	子ども 14(中 1・比 10・ミ 2・ブ 1) 大人 2(日 1・比 1)	8
8/15	大久保 地域センター	子ども 5(日 2・中 1・比 1・ミ 1) 大人 2(日 1・比 1)	3
9/5	子ども 総合センター	子ども 11(日 9・比 2)	1
9/14	大久保 地域センター	子ども 26(中 3・比 22・ミ 1) 大人 2(日 1・比 1)	19
9/21	大久保 地域センター	子ども 19(日 3・中 3・比 10・ミ 2・その他 1) 大人 6(日 3・中 1・比 1・ミ 1)	7

【地域での発表及び展示(予定を含む)】

開催日	催し名	主催者
7-8 月	写真作品展示	大久保図書館
9/25	フランス人向け オリエンテーション	在日フランス人協会
10/14	大久保まつり	新大久保商店街振興組合等
10/19	本塩子どもワールド	本塩町児童館
11/17	ここ・から祭り	子ども総合センター
1-3 月	写真作品展示	ギャラリー大ガードみるつく、東京都健康プラザハイジア
1-3 月	多文化共生 フェスタ	新宿区多文化共生連絡会

【子どもの居場所づくり(あわスペースの運営)】

子どもが定期的集まる居場所としての「あわスペース」を運営し、創作活動やユース活動、学習支援活動を行う。

所在地:新宿区大久保1-1-2菅原ビル3階

稼働日:週4日(火～金) 土日(月1、2回 ワークショップやユース活動等の利用に際し随時)

利用者数:延べ 552 人(9/26 現在)

【芸術ワークショップの様子】
○写真ワークショップ



○ダンスワークショップ



【地域での発表及び展示の様子】

○大久保まつり（ダンス発表）



○大久保図書館（写真作品展示）



【子どもの居場所づくり（あわスペースの運営）】



事業名	街角スポット活用事業	ヒアリング実施日	平成 25 年 10 月 30 日
実施者	実施団体	公益社団法人日本芸能実演家団体協議会	
	区担当課	文化観光課	
事業概要	目的	文化芸術の鑑賞・参加・創造の場として活用可能な駅前、ひろば、ロビー、壁面、河川等の公共的空間を「街角スポット」としてリストアップするとともに、「街角スポット」を活用した文化芸術団体等の活動のコーディネートを行うことにより、多様な文化芸術活動が重層的に展開されていくための基盤整備と文化芸術の振興による地域の活性化を進める。	
	目標・成果	<p>①街角スポットを把握し、区民・文化芸術団体等に活用してもらえる情報を整備・提供することで、街角スポットと区民・文化芸術団体等とを結びつける。</p> <p>②文化芸術への参加の機会が少ない区民等に街角スポットで気軽に鑑賞できる場を提供し、文化芸術活動への参加のきっかけとする。また、文化芸術活動における活動・発表の場を拡大し、実演芸術家の活動機会の確保が図れるほか、区内の文化芸術団体の活動の活性化・ネットワーク化を促進する。</p> <p>③文化資源やスポットを掛け合わせて新たな文化観光資源に育てていくことや、既存の催事と街角スポットを掛け合わせて催事に厚みや広がりをつけていくなど、区民の多彩なアイデアを具体化できる場としていく。</p>	
	実施内容・実績等	<p>【「使える」スポット調査】</p> <p>平成 24 年度に実施していない場所の活用、新規スポットの発掘のため、新規ヒアリング、プログラム実施に向けての調整を行った。(末広通り商店街、早稲田大学、高田馬場銀座商店街振興組合、赤城神社、他9件)</p> <p>【街角スポットライブの実施(年5回)】</p> <p>施設管理者や商店会等と企画から協力していただくとともに、音楽教室の生徒等区民が参加できる企画を提案し、以下イベントを実施した。</p> <p>①5/13 「新宿駅中コンサート」 京王電鉄新宿駅西口ひろば(地下1階)</p> <p>②10/12 「神楽坂de箏しらべ」 赤城神社神楽殿</p> <p>③10/26 「ジャズ×クラシック」 東京オペラシティアトリウム</p> <p>④1/19 「でっかいアートを作ろう！」 新宿パークタワーアトリウム</p> <p>⑤高田馬場駅前ひろばでの実施を検討中</p> <p>【情報の整理及び活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイトによるエリア、場所、イベントの情報提供 ・活用できるスポット及び活用事例の情報提供 ・新宿フィールドミュージアムとの連携 <p>【街角スポットライブの発展】</p> <p>街角スポットの活用事例を示すことで、施設管理者が独自に公共的空間を活用したイベントを実施する等の事業展開につながっている。</p>	

※各事業の事業概要欄の記載内容については、事前確認書、相互検証シート、ヒアリング時の提出資料等による。

協働事業の評価結果

(1) 新宿アートプロジェクト P13

(2) 街角スポット活用事業 P18



協働事業評価書

◇評価者〔 新宿区協働支援会議 〕

◇事業名〔 新宿アートプロジェクト 〕

● 総合評価

C

- A 協働事業として適切で優れていると評価できる。
- B 協働事業として適切であるが、一部改善することでさらなる発展が期待できる。
- C 協働事業として概ね適切であるが、一部改善の必要がある。
- D 協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。
- E 協働事業としては不十分であった。

・総合評価コメント

本事業は、これまで実施団体が地域の中で取り組んできた「大久保アートプロジェクト」の経験を活かし、区との協働事業として実施し、2年目を迎えた事業である。2年目の事業の実施にあたっては、「地域活動を行う多様なコミュニティとの交流や子どもたちや保護者の集まりやすい各地域での活動の場の拡大」、「活動指標及び成果目標を設定した計画的な事業展開」を改善点として掲げ、事業に取り組まれてきた。

今年度の事業についても、月1回の定例会の開催や実施現場に区担当者が積極的に参加することで、事業の進捗状況や課題、成果目標の達成状況を確認し合う等の取り組みが行われており、協働に取り組む双方の姿勢は評価できる。

また、成果目標の達成という点においても、ワークショップの参加人数や実施回数も平成26年3月までに到達できる見込みであり、団体・区担当課の努力は評価できる。

さらには、この事業で出会った外国にルーツを持つ若者と日本人の若者たちが、それぞれの持つ多様性を生かして、写真や映像の共同制作活動をはじめたことや、ワークショップを運営するボランティアとして参加するようになったことも具体的な成果として評価できることである。

一方、ワークショップをはじめとする各事業への地域住民の参加は多くなく、この事業が目的とする外国にルーツを持つ子どもたちや保護者と地域住民との共同制作や連携といった点や全区的な広がりを持った事業展開といった点には、引き続き、課題が残ることとなった。

(1) 新宿アートプロジェクト

また、成果指標の設定についても、事業に参加した子どもたちの数や満足度、子どもたちの育ちへの影響等とあわせて、学識経験者や実務者等の意見も参考にしつつ、子どもを取り巻く保護者や地域との関係でも検討しておくことも必要だったのではないかと。

2か年の協働事業は今年度で終了することとなるものの、本事業の目的に掲げる「新宿区に在住する外国にルーツを持つ人々の多様性を文化資源として捉え、一歩進んだ新しい多文化共生のロールモデルを実現し、多文化共生社会をつくっていく」ことは息の長い取り組みとして捉えていくことが必要である。

また、地域との関係を構築し、全区的な広がりをもって事業を進めていくことが、多文化共生社会をつくることに繋がるものとなる。この事業で得られた成果と課題を共有し、更に発展させ、多文化共生社会をつくるという本質的な内容を見据えた活動として進めていただくことを期待したい。

● 項目別評価

- 1 = 優れている 2 = 適切である 3 = 課題はあるがほぼ適切である
4 = 不十分であり改善が必要

協働事業評価項目		評価指標
計画	① 事業における区民ニーズや課題のとらえ方	1・2・ 3 ・4
	② 事業の成果目標の設定	1・2・ 3 ・4
	③ 協働の相手への期待とその成果	1・2・ 3 ・4
	④ 役割分担の決定方法	1・2・ 3 ・4
実施	⑤ 事業の進捗状況や事業に関する情報の共有	1・2・ 3 ・4
	⑥ 協働の相手との成果目標の達成度などの話し合い	1・2・ 3 ・4
結果	⑦ 当該事業実施における受益者（区民）の意見集約	1・2・ 3 ・4
	⑧ 今後の課題の把握および共有	1・2・ 3 ・4
反省と改善	⑨ 改善すべき内容の把握	1・2・ 3 ・4

・評価コメント

	協働事業評価項目	評価点
計画	① 事業における区民ニーズや課題のとらえ方	3
	<p>外国にルーツを持つ子どもたちが自己肯定感を持って主体的に生きていけるように支援していくことは大切なことであり、異なる文化を背景に持つ外国にルーツを持つ住民と地域住民との相互交流を深めることを課題として設定していることも適切である。また、この事業を進めていく中で求められるのは、外国にルーツを持つ人たちが生活している地域が、どのようにその人たちを受け入れるかであり、日常生活の中で特別に意識しなくても共生できるようになることである。外国にルーツを持つ人々と地域住民が互いに当事者として、そうした意識をどれだけ醸成し、広げていけるか、本事業は、そのための一つのモデルであり、事業の実施自体を目的化すると本来の趣旨が薄れていくことになるので留意する必要がある。</p> <p>なお、事業の実施にあたっては、フィリピン国籍の子どもたちの参加が多く見られる。参加者の特性を踏まえ、事業を進めていくことも課題の一つとして捉えておく必要がある。</p>	
	② 事業の成果目標の設定	3
	<p>子どもたちの自己肯定感の醸成や地域での相互理解や交流の推進等、この事業の本来の目的に対する成果目標を設定することの難しさや費用対効果を検証するための指標設定することの困難さについては、理解できるところであり、双方が課題として認識している状況は確認できた。</p> <p>しかし、事業計画で掲げた「目的」に対して、どの程度進んだのか、あるいは、どこに課題があるのか、そして、それを外国人の側や地域社会から見て、評価、確認ができるような成果目標を設定していくことは必要なことである。定量的なデータとしては測りにくい領域の事業であるが、アンケートの回収や参加者の人数、イベントの回数などのデータ取りでは、引き続き努力を期待したい。また、活動結果を継続的に区民に発信するとともに、中長期的に地域社会へどのような影響を与え、変化をもたらしていくのか、そのような視点からこの事業を捉え、目標を設定し、効果測定を行っていくことも必要であると考え。</p>	
	③ 協働の相手への期待とその成果	3
	<p>月1回の定例会等を通して、団体と区担当課の間で、情報の共有や事業の調整、広報活動の実施にあたっての意見交換が活発に行われている等、相乗効果が発揮されてきていることを評価する。</p> <p>協働事業としての本事業は今年度で終了することとなるが、地域に多文化共生を定着させていくためには、この事業を通して培った団体、区担当課、地域等との関係を大切に、一層深めていくことが重要であると考え。</p> <p>また、新しい多文化共生のロールモデルの実現という目的を達成し、より多くの</p>	

(1) 新宿アートプロジェクト

	<p>区民に事業を展開できたとの検証をされているが、地域参加型の多文化共生の取り組みとして地域社会をどのような状況に変えていけるか等、具体的なイメージを共有しつつ、事業を進めていただきたい。引き続き、この事業が団体のもとで継続・発展することを期待する。</p>
	<p>④ 役割分担の決定方法 3</p> <p>役割分担の決定にあたっては、双方が密にコミュニケーションを図っている様子が伺え、よく意見交換され事業が進められてきていると評価する。また、外国にルーツを持つ子ども達や保護者を地域のネットワークに組み込んで地域社会を変えていくことの大切さについての認識も共有されているが、保護者への関わりについては更に踏み込むことを検討する必要もあったのではないかと考える。イベント実施の場面では、区が進める多文化共生社会を目指す取り組みの一環として発信していくことも大切であったのではないかと考える。</p>
実施	<p>⑤ 事業の進捗状況や事業に関する情報の共有 3</p> <p>前述のとおり、月1回の定例会の開催や実施現場への区担当者の参加により、事業の進捗状況等は共有されている。</p> <p>昨年からの課題であった新宿区内全域への事業の広がりについては、双方の共通認識の下に事業が進められ、本塩町児童館でのダンスワークショップの定着化、在日フランス人協会との連携等が図られてきている状況が確認できた。一方、芸術ワークショップについては大久保地域での開催が殆んどであり、事業地域の拡大等の見直しが進んできたとは言いがたい。事業の実施を通して見えてきた子ども達や若者達の居場所づくり等の課題についても更に認識を共有していくことが必要であると考える。</p> <p>⑥ 協働の相手との成果目標の達成度などの話し合い 3</p> <p>③・⑤で述べたとおり、月1回の定例会や実施現場への区担当者の参加により、進捗状況や課題等の話し合いが行われ、目標達成に向けた努力がなされており、協働の観点からも良好な状況にある。</p> <p>この事業の成果目標については、直接、事業に参加した子どもたちの数や満足度、子どもたちの育ちへの影響等とあわせて、子どもを取り巻く保護者や地域との関係でも検討しておくことも必要だったのではないかと。前年度からの検討課題である効果測定の手法などは、双方で議論を重ねている状況も確認できたが、他の似たような協働事業等から学ぶこともできたのではと思う。2年間の事業期間が終了した後の取り組みを念頭において、是非、こうした視点や他の地域団体等との協働も視野に入れ、引き続き、話し合いを進めていってほしいと考える。</p>
結果	<p>⑦ 当該事業実施における受益者（区民）の意見集約 3</p> <p>ワークショップ参加者からアンケートを回収すること等の方法により、参加者の国籍や人数、感想等の取りまとめは行われており、具体的な成果を確認することが</p>

(1) 新宿アートプロジェクト

	<p>できた。また、参加者からは高い満足度が得られていることは評価する。</p> <p>この事業を持続的な取り組みとしていくためには、この事業を理解し、支持し、参加してくれる区民が地域の中で増えていくことが大切なことなのではないか。そのためにも、地域で生活をしている区民に対して、この事業の情報発信を行い、この事業や多文化共生の取り組みについて、どのように思い、評価しているのかを把握していくことが、これからの事業を展開していくうえでも必要なのではないか。</p>
	<p>⑧ 今後の課題の把握および共有 3</p> <p>ワークショップ等の実施による参加者の満足度が得られていることや、この事業の実施前に団体が単独事業として行っていた頃、参加した若者達が運営ボランティアとし事業に参加している状況については、あらためて評価したい。</p> <p>また、定例会等を通して事業の実施過程における課題の把握・共有は出来ていると考える。</p> <p>効果測定の方法や、子どもを取り巻く保護者や地域との関係づくり、多文化共生に対する地域の意識の醸成等、各項目で言及した項目について、課題の共有を図られ、息の長い活動として、引き続き取り組まれない。</p>
<p>反省と改善</p>	<p>⑨ 改善すべき内容の把握 3</p> <p>2年間の事業期間を通して、団体は懸命に事業に取り組んでおり、区担当課もパートナーとして、共に取り組みを行い、残された期間で、どのような取り組みや改善がなされるべきかについて話し合いをしていることも確認できた。</p> <p>また、フィリピン・ネパール・韓国等、多くの国の子どもたちの関係づくりを進めることができたほか、行政の手が届きづらい子どもや保護者を子育て支援施設につなげることや、大久保まつりへの参加を通しての地域社会との関係づくり等、この事業を通して、具体的な成果をあげることもできたと考える。</p> <p>団体から提出された自己点検シートからは「一歩進んだ新しい多文化共生のロールモデルを実現できた」との記載も確認できるが、協働提案事業終了後も、この事業を更に発展させていくための課題を検討し、共有していくことを望みたい。前項まででも触れてきたことであるが、地域との関係を構築し、全区的な広がりをもって事業を進めていくことが、多文化共生社会をつくることに繋がるものとなる。多文化共生社会をつくるという本質的な内容を見据えた活動として進めていっていただくことを期待したい。</p>

協働事業評価書

◇評価者〔 新宿区協働支援会議 〕

◇事業名〔 街角スポット活用事業 〕

● 総合評価

D

- A 協働事業として適切で優れていると評価できる。
- B 協働事業として適切であるが、一部改善することでさらなる発展が期待できる。
- C 協働事業として概ね適切であるが、一部改善の必要がある。
- D 協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。
- E 協働事業としては不十分であった。

・総合評価コメント

街中で文化の香りが感じられることは、区民の日常生活に潤いや安らぎを与え、まちの活性化や新宿のまちへの愛着を育むことにもなる。本事業は、区からの提起に基づき、新宿フィールドミュージアムの実現にも寄与する事業として、文化芸術の鑑賞・参加・創造の場として現在活用されていない場所の潜在価値を見出し、「街角スポット」として活用し、地域の活性化に繋げていこうという事業である。

今年度の取り組みとして、区・団体が事業を展開し、活用場所のリストアップや活用ニーズの把握等、この事業を展開する上での問題点や課題を整理しつつ事業を進めてきたことは評価できる。また、イベントアンケートによる来場者の高い満足度や施設管理者や出演した芸能実演家からもよい評価が得られたことや、「街角スポット」を管理する施設管理者や企業との関係づくりを進めることができたこと等も評価したい。

しかし、本事業に求められる区民の参画や地域の活性化といった点から、2年間の事業を振り返った場合、抽出した「街角スポット」は高層ビルや大型商業施設に偏りがちであり、各地域の商店会や町会への働きかけ、四谷・大久保・高田馬場・落合等、それぞれの地域の中での掘り起しは進んでいない。また、実施団体の特性を活かし、パイロットプログラムに芸能実演家の参加協力を得るものの、区民の参画によるプログラム設定や1プログラムの実施に要する費用の検討等、より効果的な事業の進め方もあったのではないかと考える。さらには、区広報紙等は活用するも、区民に対する「街角スポット」の情報発信が効果的に行われ、多くの区民に認知されたとも言い難い。

(2) 街角スポット活用事業

区からの課題提起により、発掘された「街角スポット」が広く認知され、多くの区民に文化芸術の参加・鑑賞の機会を提供していくことが、区民の主体的な文化芸術活動を促し、地域の活性化や区の目指す「文化芸術創造のまち 新宿」の実現に繋がることとなる。

ヒアリングの中では、本事業の成果と課題については、今後、区の進める「新宿フィールドミュージアムの展開」で活かしていくことが、区・団体双方から示された。この2年間の取り組みの中で明らかになった事項を「新宿フィールドミュージアム」に繋げて反映できるよう、区・団体の一層の努力を当評価会として期待したい。

● 項目別評価

- 1 = 優れている 2 = 適切である 3 = 課題はあるがほぼ適切である
4 = 不十分であり改善が必要

協働事業評価項目		評価指標
計画	① 事業における区民ニーズや課題のとらえ方	1・2・3・ <input type="text" value="4"/>
	② 事業の成果目標の設定	1・2・ <input type="text" value="3"/> ・4
	③ 協働の相手への期待とその成果	1・2・3・ <input type="text" value="4"/>
	④ 役割分担の決定方法	1・2・ <input type="text" value="3"/> ・4
実施	⑤ 事業の進捗状況や事業に関する情報の共有	1・2・ <input type="text" value="3"/> ・4
	⑥ 協働の相手との成果目標の達成度などの話し合い	1・2・3・ <input type="text" value="4"/>
結果	⑦ 当該事業実施における受益者（区民）の意見集約	1・2・ <input type="text" value="3"/> ・4
	⑧ 今後の課題の把握および共有	1・2・3・ <input type="text" value="4"/>
反省と改善	⑨ 改善すべき内容の把握	1・2・3・ <input type="text" value="4"/>

・評価コメント

	協働事業評価項目	評価点
計画	① 事業における区民ニーズや課題のとらえ方	4
	<p>1年目の事業の実施内容を踏まえ、活用場所のリストアップや活用ニーズの把握等、この事業を展開する上での問題点や課題を整理しつつ事業に取り組まれてきた点は評価したい。しかしながら、この事業における区民ニーズとは、音楽・演芸等の実演芸術とあわせて、絵画、彫刻等、多彩な文化芸術に「街角スポット」で出会え、享受できる場や機会を創出することや、こうした「街角スポット」に地域住民が手作りとボランティア感覚で主体的に参加していけることなのではないか。評価時点までの活動を見る限りでは、街角スポット探しと芸能実演家によるスポットでの実演が事業の中心であり、必ずしも、区民のニーズを実現しうる計画となっているとは思われない。</p> <p>「街角スポット」を文化芸術の鑑賞・参加・創造の場としていくことは、地域の活性化に繋がるものでもあるので、これからの事業の中で答えを出して行ってほしい。</p>	
	② 事業の成果目標の設定	3
	<p>前述のとおり、1年目の事業の実施内容を踏まえ、活用場所のリストアップや活用ニーズの把握等、この事業を展開する上での問題点や課題を整理しつつ、具体的な数値目標の設定を行い、事業に取り組まれてきた点は評価したい。一方、2年目の成果指標の設定として、駅前・公園・ロビー等、公共的空間の活用とあわせて、区民が求め、参加しやすい「空間」の目標設定をすることや、イベント出演にあたって、芸能実演家のみならず、力量ある区民やボランティア等を発掘することも成果目標の設定に加える必要があったものとする。</p>	
	③ 協働の相手への期待とその成果	4
	<p>区・団体とも、街角スポットの発掘や発掘したスポットでの事業展開に対する考え方は共有されており、対等なパートナーシップによる関係は構築できていると考える。しかし、実施団体は、芸能分野における高い専門性を有する団体であるものの、区民の参画を基本とした事業や、区民を対象にどのように事業を展開し、地域を活性化していくのか、全体像が必ずしも見えていないように思える。また、区側も具体像を示せていないように見える。</p> <p>さらに、評価時点では、前年度に指摘した「団体・行政の情報系ネットワークを活用した効果」も見えていたとは言え、積極的に、事業情報を発信し、区民の関心を喚起していくことが必要であると考えられる。</p>	

	<p>④ 役割分担の決定方法 3</p> <p>ヒアリングの状況からは、区・団体の役割分担は概ね出来ている状況にあるものとする。</p> <p>区民（地域）と実演家の相互メリットがあるように、町会や商店会等との調整を図りながら事業を進めてきているとのことであるが、「街角スポット」の場所・参加団体に偏りが見られる状況にある。区民の参加、地域の活性化に向けて、双方が持つ長所を生かした事業展開を期待したい。</p>
実施	<p>⑤ 事業の進捗状況や事業に関する情報の共有 3</p> <p>事業の進め方や取組内容等については、区と団体の間で共有化を図られ、双方の認識の相違を解消されるよう努力している状況は確認できるものの、この事業の基本的な内容として求められる区民の参画や地域の活性化といった視点について、双方が理解を深めながら、事業を進める必要があったのではないかと考える。</p> <p>また、「街角スポット」や実施団体の選定、商店街への広報などについても、区の間わりを強める必要があったのではないかと考える。</p> <p>⑥ 協働の相手との成果目標の達成度などの話し合い 4</p> <p>相互検証シートやヒアリングの状況等からは、パイロットプログラムの円滑な実施に向けての打合せが行われたことは確認できるが、本事業に求められる区民の参画・地域の活性化といった点からの成果目標の設定については、十分に話し合いが行われたとは言い難いとする。今後、自主的に事業を展開していく上での課題として、予算の確保、広報宣伝、会場と出演者の確保等が提起されているが、良い解決方法を見いだして事業の継続が図れるよう、しっかりと意見交換を行っていただくことを期待したい。</p>
結果	<p>⑦ 当該事業実施における受益者（区民）の意見集約 3</p> <p>イベントアンケートによる参加者の高い満足度や、施設管理者や実演家からも良い評価も得られ、街中で音楽や文化芸術に触れさせる街角スポットライブ実施の意義があったと評価する。また、新宿駅中コンサートとして、京王電鉄の100周年イベントとのコラボレーションも良いアイデアであった。</p> <p>相互検証シートでは、「街角スポットライブ」を実施する意義として、「公共的空間を活用して、質の高い文化芸術を提供すること」「区民が積極的に文化芸術に触れることができ、気軽に本物の文化芸術を楽しむことができる」ことが述べられているが、この事業に区民が期待するものは、身近な場所での文化芸術への参加・鑑賞の機会を確保することや、地域の活性化に繋げていくということではないのだろうか。また、こうした点に対する地域住民の意見を集約する上で、例えば、地域センター等各地域を単位とした「街角スポット」に対するアンケート調査を実施してもよかったのではないかと考える。</p>

	<p style="text-align: center;">⑧ 今後の課題の把握および共有 4</p> <p>この事業を契機に関係づくりを進めることができた施設や芸能実演家の協力を継続的に得て、区の進める「新宿フィールドミュージアム事業の展開」にどのように繋げていくことができるかとの課題に対する認識を共有することはできている。</p> <p>しかし、前年度にも課題として指摘した「街角スポット」の抽出数は依然少なく、対象は高層ビルや大型商業施設に目が向きがちであり、町会や商店街への働きかけや、地域における掘り起しも進んでいないように考える。</p> <p>本事業終了後も、「文化芸術創造のまち新宿区」実現に向けて、「新宿フィールドミュージアム事業の展開」の中で引き続き課題の整理・共有を図り、多くの区民の参加の下で、事業が継続されていくよう対策を講じることを要望する。</p>
反省と 改善	<p style="text-align: center;">⑨ 改善すべき内容の把握 4</p> <p>相互検証シートの記載からは、計画づくりや事業実施にあたって、双方の認識の共有が図られ、改善する点がないように読めるが、発掘した「街角スポット」の情報を誰に提供し、どのように活用・利用できるようにしていくのか、「街角スポット」を利用したい団体のためのマニュアルや案内書の作成等も必要になってくるのではないかと。</p> <p>また、施設管理者に対して、文化イベントや街の魅力づくりの意識を醸成していくことや、街角スポットを活用してもらうためのコーディネートのある検討等も2年間の事業を通しての課題として明らかになってきたのではないかと。「新宿フィールドミュージアムの展開」や「文化芸術創造のまち 新宿」の実現に向けて、引き続き、課題の把握に努め、改善策を打ち立てていただきたい。</p>

【参考資料】

協働事業事前確認書 P24

協働事業自己点検シート P25

協働事業相互検証シート P29



協働事業提案制度による_____年度実施事業 事前確認書

作成日	年 月 日
-----	-------

事業名		
実施者	団体名	
	区担当課	
事業の目的		
事業の概要		
事業目標・ 想定される 事業成果		
事業の受益者		
協働により 期待される 効果		

※実施2年目の事業のみ記入

(昨年度の協働事業評価で指摘された課題への対応も含めて記入してください。)

1年実施して把握した課題・問題点	
2年目実施にあたっての改善点	

《協働事業自己点検シート》

記入日	記入者	記入責任者
年 月	※どちらかをチェックしてください 団体 <input type="checkbox"/> 区担当課 <input type="checkbox"/>	氏 名： 連絡先：

事業名		
事業の実施者	団 体	
	区担当課	
事業の目的		
事業の概要		
実施期間	年 月から 年 月まで	

※想定される事業成果や受益者について事業実施過程で変更が生じた場合は、現時点欄に記入してください。

事業目標・ 想定される 事業の成果	
-------------------------	--

現時点⇒

--

想定される 事業の受益者	
-----------------	--

現時点⇒

--

※実施2年目事業で該当する場合のみ記入

事業開始時に作成した事前確認書の「2年目実施にあたっての改善点」の内容に補足が生じた場合は記入してください。

--

* I・IIは、協働の取組みを5段階で評価してください。

5 = 十分に達成された (80%以上)	4 = ほぼ達成された (60%~80%)
3 = 課題があるものの概ね達成された (40%~60%)	
2 = ほとんど達成されなかった (20%~40%)	1 = まったく達成されなかった (20%未満)

I 協働事業の計画づくり

ここでは、団体と区担当課によって、採択された提案事業を区事業として実施するための計画づくり・仕様づくりの段階(※)での協働の取組みを評価します。

(※実施2年目の事業については、2年目の計画を立てる段階)

①計画づくりのプロセスで双方がどのように協力して取り組みましたか。

項 目		評 価				
Q1	率直な意見交換のもとに、対等な立場で計画づくりを進めましたか。 (対等)	5	4	3	2	1
Q2	お互いの自主的な発案を尊重しあって計画づくりを進めましたか。 (自主性尊重)	5	4	3	2	1
Q3	お互いが役割を自覚して、自立的な事業展開ができるように、計画づくりを進めましたか。 (自立化)	5	4	3	2	1
Q4	お互いの特性や立場の違いを理解して計画づくりを進めましたか。 (相互理解)	5	4	3	2	1
Q5	事業目的を相互に確認し明確にして、計画づくりを進めましたか。 (目的共有)	5	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由・補足説明などを記入してください。						

②協働事業の質・効果の向上に向けて、どのように計画を検討しましたか。

項 目		評 価				
Q6	お互いの特性を生かしつつ、地域ニーズや課題を的確にとらえた計画となりましたか。	5	4	3	2	1
Q7	協働で行う意義や必要性を相互で検討・確認した計画となりましたか。	5	4	3	2	1
Q8	費用に対する効果を相互に検討・確認した計画となりましたか。	5	4	3	2	1
Q9	役割分担や責任を相互に検討・確認した計画となりましたか。	5	4	3	2	1
Q10	協働で実現する目標を相互に検討・確認をした計画となりましたか。	5	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由・補足説明などを記入してください。						

II 協働事業の実施

ここでは、事業の実施段階での協働の取り組みについて評価してください。

①事業を進めていくプロセスで双方がどのように協力して取り組んでいますか。

項 目		評 価				
Q11	率直な意見交換のもとに、対等な立場で事業を進めていますか。 (対等)	5	4	3	2	1
Q12	お互いの特性を発揮して、持てる力を自主的・効果的に出し合いながら事業を進めていますか。 (自主性尊重)	5	4	3	2	1
Q13	お互いが役割を自覚し、過度に依存することなく事業を進めていますか。 (自立化)	5	4	3	2	1
Q14	お互いの特性や立場の違いを理解して、事業を進めていますか。 (相互理解)	5	4	3	2	1
Q15	事業の目的をお互いが理解し、共有しながら事業を進めていますか。 (目的共有)	5	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由・補足説明などを記入してください。						

②事業の質・効果を高めるためにどのように取り組み、現段階においてどの程度の効果が生まれていますか。

項 目		評 価				
■事業の質の向上への取り組みについて						
Q16	お互いの特性を発揮して、適切な解決策を見だし、課題を解決できていますか。	5	4	3	2	1
Q17	事業の進捗状況に応じて、必要な情報を共有・活用できていますか。	5	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由・補足説明などを記入してください。						
■現段階での、協働で取り組んだことによる効果について						
Q18	受益者の満足度を把握するための調査や意見聴取を行っていますか。	5	4	3	2	1
Q19	事業を通じて、現時点で受益者(※)が十分な満足を得られたと考えますか。	5	4	3	2	1
Q20	協働することにより期待した効果が得られ、現時点での事業の目的が達成できましたか。	5	4	3	2	1
Q21	事業を通じて、実施者が充実感や達成感を得られていますか。	5	4	3	2	1
Q22	事業を通じて、お互いの信頼関係が築けていますか。	5	4	3	2	1
Q23	協働したことにより、単独で事業を行うよりも、成果があがっていますか。	5	4	3	2	1
Q24	事業を通じて外部とのネットワークが広がりを見せていますか。	5	4	3	2	1
Q25	事業を通じて、地域においても、協働して地域課題に取り組む意欲が高まっていますか。	5	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由・補足説明などを記入してください。						

※受益者＝1枚目に記入した「事業の受益者」

《協働事業相互検証シート》

記入日	年 月 日	
記入者	提案団体	・団体名： ・記入責任者 氏名： 連絡先：
	区担当課	・部署名： ・記入責任者 氏名： 連絡先：
		・部署名： ・記入責任者 氏名： 連絡先：

事業名		
事業の実施者	団体	
	区担当課	
事業の目的		
事業の概要		
事業の受益者		

※実施2年目の事業のみ記入

(昨年度の協働事業評価で指摘された課題への対応も含めて記入してください。)

1年実施して把握した課題・問題点	
2年目実施の改善点	

事業の計画づくり

(協働して事業計画(仕様)をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったことはどのようなことですか。また、認識の違いを改善するために、今後どのように取り組んでいきますか。)

【共有できたこと】**【認識に違いがあったこと】****【改善に向けた取組み】****事業実施**

(協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったことはどのようなことですか。また、認識の違いを改善するために、今後どのように取り組んでいきますか。)

【共有できたこと】**【認識に違いがあったこと】****【改善に向けた取組み】**

事業の受益者にとっての効果・影響

(協働して事業を実施した結果、事業の受益者にとっての効果・影響として、お互いに共有できたことや認識に違いがあったことはどのようなことですか。また、認識の違いを改善するために、今後どのように取り組んでいきますか。)

【共有できたこと】**【認識に違いがあったこと】****【改善に向けた取組み】****●自由意見**

平成25年度 新宿区協働事業評価報告書

平成26年2月発行

印刷物作成番号

2013-24-2601

編集・発行 新宿区地域文化部地域調整課管理係

東京都新宿区歌舞伎町1-4-1

電話 03-5273-3872

この冊子は、森林資源の保護とリサイクルの促進のため、
古紙を利用した再生紙を使用しています。